

大阪市立本田小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の児童は素直で、概ね良好な人間関係を築けている。これまで全校児童に「自分を大切にする、周りの友達も大切にすること」を意識づけ、人間関係調整力を学年に応じて指導してきた。異学年の関わりも大切にしており、高学年児童が低学年児童にやさしく寄り添う姿も多く見られる。

学校のきまりについては、互いに安全に安心して生活していくために必要なものであることを理解し、きまりを守って生活しようと思う児童が大半を占めている。新型コロナウイルス感染症予防のため活動を制約されたり、児童数が激増し校舎の改修工事等が進んでいったりする中で、児童が安全に生活するためには、環境整備はもちろん児童一人ひとりが安全に生活を送るために課題意識をもち、自分にできることを考え行動できる力を育てることが重要である。

学習においては、与えられた課題に対して真面目に取り組むことができる。本校は令和2年度のGIGAスクール構想による1人1台学習者用端末の整備まで、大阪市ICT活用拠点校として、ICTを活用した授業公開や研修等を実施し、ICT活用の中核的な役割を担ってきた。そのため教職員も児童もICTに対して抵抗が少なく、課題解決のためにインターネットを活用して調べたり、調べた内容をプレゼンテーションソフトでまとめたりする力も育ってきている。本校児童の持ち前の真面目に取り組む姿勢とICT活用能力をベースに、これから先の社会や科学技術の変化に対応できる児童を育成するために、資質・能力を育むための学習活動(教育活動)を展開していく必要がある。

体力・運動能力に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響で、外で遊ぶ機会が減ったこともあり、運動に対して抵抗感をもつ児童が増えている。運動をする機会を確保すること、また、運動を楽しんでいる子どもが増える体育科の授業づくりをしていくことが今後の課題としてあげられる。

健康的な生活をするために必要な「朝食をとる」「同じ時刻に寝る」「同じ時刻に起きる」については、家庭の協力もあり、概ね良好な結果を保っている。保健教育、食育、家庭への啓蒙の3つの側面からアプローチを続けていく。

一部ではあるが、生活状況が深刻化し様々な課題を呈する家庭も年々増えている。近年のグローバル化した社会での保護者の勤労状況は多様化し、それぞれの家庭の経済格差や教育力の格差、文化親和度の格差の広がりを生み出している。また、グローバルイズムは、さまざまな国から転校してくる児童の増加という現象を生み出し、日本語教育のニーズも高まっている。公教育の基礎になる小学校であるからこそ、わたし達教職員はこれらの格差を乗り越え、等しく教育を受ける機会が与えられ、社会に積極的に参加するチャンスを一人一人の子どもに提供しようという決意をもって、学校教育に携わっている。

このような子どもの実態や社会情勢、第3期大阪市教育局基本計画の3つの最重要目標を踏まえ、「健康でなかよくする子、よく学ぶ子」を学校教育目標に設定している。学校教育目標達成のため、「愛と笑顔があふれる学校 ～子ども、教職員、保護者、地域がつながりみんなで学校をつくる～」をめざす学校像とし、めざす子ども像、めざす教職員像を、「自分と周りの人を大切にし、本田小学校のみんなが幸せな学校生活を送れるように自ら目標を設定し、責任をもって行動できる子ども」「子どもの成長を願い、

将来、社会の一員として自分なりの道を切り拓けるために学び続け、協働して学校運営に参画できる教職員」と設定している。

さて、本校教育の課題は大きく2つである。一つは自分と周りの人を大切にし、自他の命を守る力の育成。もう一つは常に変化し不確実で曖昧な時代に、柔軟に対応できる児童の育成である。前者については、多様性を尊重し、児童一人ひとりが安全に生活を送るために課題意識をもち、自分にできることを考え行動できる力を育てていきたい。自他を大切にするための具体的な取り組みについては、中期目標、年度目標で設定し、毎年見直しを図っていく。後者については、すべての学習の基盤となる資質・能力を育成するための授業実践や教員の研鑽に努めるとともに、芸術・スポーツ・文化・伝統など本物に触れて学ぶ機会を設定し、児童の身体的文化資本を育てていきたい。

中期目標 (★は全市共通目標)

【安全・安心な教育の推進】

★小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

★年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

★年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

☆令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、令和3年度【75.8%】より5%上昇させる。

☆令和7年度の校内調査の「友だち一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。

☆令和7年度の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

★小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。

★小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。

★小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

★小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 60%以上にする。

☆令和 7 年度末の校内調査の「体験や見学、鑑賞などを通じて、芸術・スポーツ・文化・伝統などを学ぶことができましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 80%以上にする。

☆全国学力・学習状況調査の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合を令和 7 年度調査において、85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

★令和 7 年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、100%にする。

★「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教職員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 90%以上にする。

☆令和 7 年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

★令和5年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を88%以上にする。

★年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

★年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校の年度目標

☆令和5年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、75%以上にする。

☆年度末の校内調査の「友だち一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合90%以上を継続させる。

☆年度末の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合80%以上を継続させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

★令和5年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。

★令和5年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。

★令和5年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。

★令和5年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を66%以上にする。

★令和5年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を53%以上にする。

学校の年度目標

☆年度末の校内調査の「体験や見学、鑑賞などを通じて、芸術・スポーツ・文化・伝統などを学ぶことができましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 75%以上にする。

☆令和 5 年度の全国学力・学習状況調査の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

★年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、87%にする。

★「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教職員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 90%以上にする。

学校の年度目標

☆年度末の校内調査の「読書記録の目標（冊数）を達成することができましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

すべての最重要項目において、概ね目標を達成することができた。

安全・安心な教育の推進で昨年度末の課題であった「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な回答を増やすことに、学校が一丸となって取組を進めてきた成果を出すことができた。年間を通しての継続的な活動を計画、実践を今後も継続していきたい。

未来を切り拓く学力・体力の向上でも、一定の成果をあげることができた。教科横断的な学びを展開することが、未来を拓く学力の育成につながったと考える。ただ、睡眠の大切さについては学校の力だけでは限界があるので、各家庭とどのように連携していくかという視点で取組を進める必要性を感じている。

学びを支える教育環境の充実では、端末が文房具のひとつになってきている実感はある。今後は、情報リテラシー教育を進めていくことや、より校務の D X 化を進めることなどに力を入れることで、教育の D X 化を図りたい。

大阪市立本田小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>★令和5年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を88%以上にする。</p> <p>★年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>★年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>☆令和5年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、75%以上にする。</p> <p>☆年度末の校内調査の「友だち一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合90%以上を継続させる。</p> <p>☆年度末の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合80%以上を継続させる。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【2、豊かな心の育成】</p> <p>命を大切にし、仲間を尊重する心と態度を育てる教育活動を実践する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートで「いじめられたことがある」と回答する児童の割合を前年度比で減少させる。 ・校内調査「異学年交流の中でみんなの気持ちを考えて動いた」の項目について、肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。 ・校内調査「困っている友だちがいたら助けることができる」の項目について、肯定的に答える児童の割合90%以上を継続させる。 ・各種避難訓練の事前指導、ふりかえりを各学級で徹底することで児童が課題意識をもち、自分にできることを考え行動できる力を育成する機会をもつ。 	A

取組内容②【１、安全・安心な教育の推進】		A
児童一人ひとりが安全に生活を送るために課題意識をもち、自分にできることを考え行動できる力を育成する。		
指標		
・校内調査「安全に気をつけて生活することができている」の項目について、肯定的に答える児童の割合８０％以上を継続させる。		
・校舎内(運動場、講堂を除く、登下校時のけがは含む)のけがで保健室に来室する児童１人あたりの回数を前年度比で減少させる。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析（自由記述欄）		
取組内容①【２、豊かな心の育成】		
○全市共通目標の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、目標数値８８％を上回ることができた。いじめについて考える日を毎学期設定するなど、全校で取り組んだ結果だと考える。		
○コロナ禍で思うように取り組めなかったたてわり班活動など軌道に乗り始め、その成果もみられている。		
○たてわりに対するアンケート結果で、１月は増加したので来年度も高めていく必要がある。１学期にしっかりと楽しみながらお互いの関係をつくっていくような活動を工夫する。		
○異学年交流の中でみんなの気持ちを考えて動くことができたに対する肯定的な回答が指標より２０％上回った。縦割り班活動や本田アミーゴの活動が定着してきたことで、みんなの気持ちを考えて動くことができる児童が増えてきた。		
○様々な取り組みにより異学年の友達と楽しく関わることができていた。また、クラスや学年の友達の一人一人のよさを認め合い仲良くできていた。		
取組内容②【１、安全・安心な教育の推進】		
○「安全に気をつけて生活することができている」の項目について目標値を継続して達成することができた。		
○けがで保健室に来室する児童１人あたりの回数は昨年と比較して減少した。		
○休み時間に外に出るときや給食返却後などに廊下を走ってしまう児童や、池に近づいている児童が多い。		
○ボールの扱いが雑である。		
次年度への改善点		
取り組み内容①		
○いじめの認知件数に関しては、昨年度より増加しているが、今年度から設定している指標でもあるため、継続して調査していく必要がある。		
取り組み内容②		
○指標のデータを蓄積して、データをより客観的にみられるようにする。		
○次年度は指標に「校内調査『ろうかや教室で走らず生活していますか？』の項目について、肯定的に答える児童の割合を８０％以上にする」を追加する。		

大阪市立本田小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>★令和5年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。</p> <p>★令和5年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。</p> <p>★令和5年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。</p> <p>★令和5年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を66%以上にする。</p> <p>★令和5年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を53%以上にする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>☆年度末の校内調査の「体験や見学、鑑賞などを通じて、芸術・スポーツ・文化・伝統などを学ぶことができましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を75%以上にする。</p> <p>☆令和5年度の全国学力・学習状況調査の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>児童が主体的・対話的で深い学びに取り組めるように、全教員が指導力向上に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の研究授業・研修会を年間30回以上行う。 ・児童が互いに認め合うために、多様な考えを引き出したり、様々な価値観に基づいて話し合ったりする活動等を年に3回以上実施する。 ・総合的な学習の時間等において、教科等横断的な授業実践を年に1回学年で計画的に実施する。 	A

<p>取組内容②【４、誰一人取り残さない学力の向上】 外国語（英語）の勉強が好きな児童を育てるための英語活動を充実させる。</p>	A
<p>指標 ・本田タイム等を活用して、外国語（英語）の活動を週２０分以上実施する。</p>	
<p>取組内容③【４、誰一人取り残さない学力の向上】 体験的な校外活動、地域や専門の人材を招いた学習活動に、学校全体・各学年で取り組む。</p>	A
<p>指標 ・体験的な校外活動、地域や専門の人材を招いた学習活動に、各学年で年３回以上取り組む。</p>	
<p>取組内容④【５、健やかな体の育成】 児童が運動（体を動かす遊びを含む）する機会を設定するとともに、区の教育支援事業等を活用して体育の授業力を向上させる。また、健康的な生活を送るため、目標を設定し、取り組める児童を育成する。</p>	B
<p>指標 ・特別活動として、児童が中心となり、わくわくスポーツタイムを企画したり、区の教育支援事業等を活用して、児童に運動の楽しさを味わわせる活動をしたりする。このような体育的な活動を年３回以上実施する。 ・年１回以上、保護者に対して睡眠に関して啓発活動を行う。 ・学期に１回行う健康がんばり週間時に、起床・就寝時刻を記入し生活リズムについて振り返る機会を設け、健康がんばりカード質問㉔「自分で決めた時間にねて、おきましたか」に対して肯定的な回答をする児童の割合を７０％以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【４、誰一人取り残さない学力の向上】 研究授業をはじめ計画的に取り組を進めることができていると感じる教員は多い。経年調査の話し合う活動についての数値も、昨年度の３３．６％から４２．４％と大きく増加している。学力経年調査の国語・算数の結果については、すべての学年で０．０３ポイント上昇させることができなかったが、３学年中２学年がどちらの教科も０．０３ポイント以上上昇することができた。</p> <p>取組内容②【４、誰一人取り残さない学力の向上】 経年調査で、「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合は７８．２％と目標値を大きく上回ることができた。校内の教員アンケートでも、外国語活動（英語）の取り組みについて、９月５８％に比べ１月は８３％と大きく増加している。要因としては本田タイム以外の隙間時間にも英語の時間を設定するといった柔軟な時間配分にすることで、指標である１週間で２０分行うことができたと考える。</p> <p>取組内容③【４、誰一人取り残さない学力の向上】 昨年度より出前授業や芸術鑑賞など体験的な活動を計画的に取り入れ、児童が様々な価値観を得ることができている。教員アンケートだけでなく児童アンケートの結果からも９月８３％から１月９２％とその向上が見られた。</p>	

<p>取組内容④【５、健やかな体の育成】</p> <p>運動の項目については、６月８６％から１月９２％と数値が上昇している。</p> <p>今年度は学校保健委員会を開催し、睡眠について児童が調査報告を発表するとともに、学校医や学校薬剤師から話を聞く機会を設けるなどしたが、睡眠については数値が微増しているものの、目標を達成できているとは言い難い。</p>
<p>次年度への改善点</p>
<p>取組内容①</p> <p>○指標の一つは今年度の研究テーマに基づいて設定されている。来年度の研究テーマに即して指標を変更することも考えられる。その他は次年度も継続して取り組んでいく。</p> <p>取組内容②</p> <p>○次年度も短い時間で継続して取り組むよう、一人一人の教員が意識して実践を行う。</p> <p>○全市共通目標の６６％以上を７０％に変更する。</p> <p>取組内容③</p> <p>○総合や各教科の関連、発展的な内容で出前授業などを継続して取り組んでいく。</p> <p>○学校年度目標の７５％を７７％に変更する。</p> <p>取組内容④</p> <p>○睡眠については、家庭環境の影響が大きく、啓発を続けるだけでは限界があると感じる。</p> <p>学校年度目標を８０％から７０％へ減少させるか、指標を変更する必要があると考える。</p>

(様式2)

大阪市立本田小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標(小・中学校) ★年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、87%にする。 ★「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教職員の勤務時間に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。 学校の年度目標 ☆年度末の校内調査の「読書記録の目標(冊数)を達成することができましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 日常の学習の中で個別最適な学びや協働的な学びの実現に向け、1人1台端末を活用する。	B
指標 ・一人ひとりの子どもの可能性を引き出すために、デジタルドリル navima を週2回程度活用する。 ・1人1台端末を文房具の一つとして活用できるようにするために、3～5年生でタイピングの練習を週に1回程度取り組む。 ・3～6年生は、教科の学習で週2回程度活用する。 ・情報リテラシー教育を計画的に学期に1時間ずつ実施する。	
取組内容②【8、生涯学習の支援】 児童が本に触れる機会を保障するとともに、児童が読書に興味をもち、読書活動への意欲向上につながる取り組みを行う。	B
指標 ・各学年、週に一度の図書の時間を確保する。(時間の確保) ・学校司書や図書ボランティアと連携を図り、低学年に読み聞かせを、週に一度以上行うようにする。(自分の知らない世界との出会い) ・中央図書館との連携を図り、学習単位に関わる図書の貸出依頼を、学期(前期・後期)に一度以上行うようにする。(目的のある読書) ・休み時間の図書開放を週に1回実施する。(機会の確保) ・読書記録を作り、子どもの読書の実態を把握している。(実態の把握) ・学級書庫の本を年に2回入れ替える。	

<p>・めざす子ども像に近づけるために、読書に関して自ら目標を設定し、目標に向かって遂行する機会を設ける。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取り組み①【6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>○ほぼ毎日と答える児童は 77%と目標値を下回っているが、実態としては昨年度より意識的に授業のDX化には取り組むことができた。とくに中間での反省を生かして後期には日常的にICT活用に取り組む姿が見られるようになった。</p> <p>○教科の学習で週2回程度活用するための授業デザインに取り組むことができた教員は8割となり、意識的に取り組もうとしてきたことが見て取れる。特に高学年の先生は全員が肯定的な回答をしており、高学年に向け子どもの実態に即した授業デザインを考えることができている。また、中間報告で出てきた課題である navima の活用についても低学年を中心に改善傾向にあり、それぞれの教員の努力が表れている。</p> <p>取り組み②【8、生涯学習の支援】</p> <p>○年度末の校内調査の「自分で決めた目標冊数をクリアできましたか？」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合は63%であり、目標数値の70%には届かなかった。しかし、昨年度より本を読む量が増えたと答える児童は65%と高く、減ったと答えた児童は11%と低かった。また、教師アンケートでも、96%の学級が週1回の図書の時間を確保することができたと回答があった。</p> <p>○中間評価の段階で低かった「本が学習道具の選択肢の1つとなるように、教科学習と関連付けた読書活動を取り入れたか」というアンケート項目でも、否定的な回答をする教師は減少し、意識的に取り組むことができたことがわかる。</p>	
<p>来年度への改善点</p>	
<p>取り組み①【6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>○来年度も授業のDX化を目指して取り組みを続けていく必要がある。そのため、目標数値の見直しは必要である。今年度の結果である77%を基準として、来年度は80%を目標にするほうがいいのではないかと考える。</p> <p>○校内研究、研修や会議などでDX化の必然性を高めていく。</p> <p>○一人一台端末の活用と合わせて考えていかないといけないことが、情報リテラシー教育である。今年度は学年により、計画的に実施できた学年とそうでない学年が分かれたので、来年度は外部講師により情報リテラシー教育を計画的に入れていく必要がある。</p> <p>取り組み②【8、生涯学習の支援】</p> <p>学校の年度目標が「読書記録の目標（冊数）を達成することはできましたか」になっているため、読書量に関係なく否定的な回答が見られた。そのため「読書記録の目標（冊数）を意識しながら読むことができましたか」と「昨年度より本を読む量は増えましたか」を年度目標に設定する。</p>	